





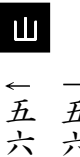


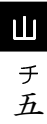



番号	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
名称	あわせづめ 合爪	かきづめ 搔爪	わりづめ 割爪	すくいづめ すくい爪	ひきれん 引連	はんひきれん 半引連	ながしづめ 流爪	うられん 裏連
符号				ス				
読み譜	シャン	シャ	シャシャ シャンシャン	ツル/テレ/チリ			カーラリン	サーラリン
説明と例	親指と中指で、同時に二本の絃を弾く。  三八 四九 五十 <b>山</b> (参(四(五 八)九)十	搔手(かきて)または、平爪(ひらづめ)とも言う。 隣接した日本の絃を、中指で手前に搔くように同時に弾く。  三四 四五 五六 <b>山</b> {参 {四 {五	搔手と同じ事を、人差し指、中指の順に二度に分けて弾く。  三四 五六 六七 <b>山</b> {参 <sub>2</sub> {参 <sub>3</sub> {五 <sub>2</sub> {五 <sub>3</sub> {六 <sub>2</sub> {六 <sub>3</sub>	排爪(すくい爪)と書く。親指爪を右に傾け、下向きに力を加えながら、爪の横で絃をこする。 手全体を前方に押し次の絃に爪皮と親指の腹が当たって止まる。すくい返す時は、爪先端部でこすの斜め上に軽く持ち上げるシャリシャリ音。持ち添えるすくい爪は、すくい返す時だけにし、人差し指を、補強の為に持ち添える。  九ス 斗ス 七ス ハス <b>山</b> 九 斗V斗V	中指で、一から巾まで順に連続して弾く。  一 巾 <b>山</b> {壺 壺巾	中指で、五から巾まで順に連続して弾く。  五 巾 <b>山</b>	親指で、巾から一絃へ向けて、連続して弾く。  カ 六 <sup>七</sup> <b>山</b> 巾 壺 <sup>壺</sup> 壺	爪の裏を使って、高音から低音に向かって連続して弾く。トシモロをした後、人差し指は絃から離さずに、中指の爪が、為か斗から先行して一の方向に向かつて、中指、人差し指を交互に爪裏で軽くさわっていき、最後に親指で二一を同時に弾く。  サ 六 <sup>七</sup> <b>山</b> 巾 壺 <sup>壺</sup> 壺

番号	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16
名称	うちづめ 打爪	すりづめ すり爪	われん 輪連	ちらしづめ 散爪	ひきつて 引捨て	かけづめ 掛け爪	はんかけづめ 半掛け爪	はやかけづめ 早掛け爪
符号	ウ(宮城) 打(沢井)							
読み譜		ズーズー	シュッ シュウ	シュウ シュッ		カラカラ		
説明と例	<p>中指、人差し指の爪の根元で瞬間的に絃を打つ。その反動ですぐ離すと良い音が出る。</p> <p><b>山</b> ウ五</p> <p></p>	<p>裏すりとも言う。中指と、人差し指の爪の右横を、隣接する二本の絃に当て、左右にこする(ズーズーという音)。</p> <p> <b>五六</b>  <b>五六</b></p> <p><b>山</b> </p> <p>←五六 →五六</p>	<p>中指の爪の横のへりで、右から左へ輪を描くように、すり鳴らす。比較的低い方の絃を使用。特に一と二が多い。</p> <p><b>山</b>  <b>ワ</b></p>	<p>中指、人差し指の爪の先端で、隣接する2本の絃を竜角から柱に向かって素早く摩る。指を丸めた後、ぱっと伸ばして音を出す(シュッと(う)音)。</p> <p> <b>五六</b></p> <p><b>山</b>  <b>チ五</b></p>	<p>例：中指で、一二を弾きはじめ、途中から人差し指に変えて十を弾く。</p> <p></p>	<p>例：人差し指で、七を強く弾き、続けて八を弱く弾き、上に軽く、はね上げる。次に中指で、六を強く弾き、続いて七を弱く弾き、上に軽く、はね上げる。向こう指(薬指、中指、人差し指)を、八に置き、親指で斗を強く上へはねあげて弾く。強・弱・強・弱・強の5つの音の大きさのバランスが重要。</p> <p><b>七<sup>2</sup>八<sup>3</sup>六<sup>3</sup>七<sup>1</sup>斗</b></p>	<p>掛け爪の5つの音のうち、第2音(弱)、または第4音(弱)がゼロになる。</p> <p>例：人差し指で、強く七を弾いた後、一度絃から爪を離し、あらためて中指で六を強く弾く。</p> <p><b>七<sup>2</sup>八<sup>3</sup></b></p>	<p>掛け爪、半掛け爪を速く弾く。</p> <p>例：掛け爪手順で、中指の六を弾くと同時に、親指を斗の上に置く、中指で弾く七八はごく小さくし、手首ごと手前にひっぱる感じで、竜角に沿ってまっすぐ動かし斗と同時に弾く。</p> <p><b>七<sup>2</sup>八<sup>3</sup>六<sup>3</sup>七<sup>1</sup>斗</b></p>

番号	R17	R18	R19	R20	R21	L1	L2	L3
名称	おしあわせ 押し合せ爪	ピチカート	アルペジオ	トシモロ	すくい 合わせ爪?	おして 押し手	かけ押し	あとおし 後押し
符号		4	)			ヲオ手	]	オ・オハ・オハオ
読み譜	リヤン					<b>山</b> △ ▲ ▲		<b>山</b> 押し止め 押し止め放し 押しひびき
説明と例	ある絃を押し、一本手前の絃と同音にした上で、親指で二本をほとんど同時に弾く。弾いた後ははね上げない。 <b>科</b> <b>柳</b> <b>山</b> ▲斗	爪をつけない指(薬指など)で、竜角と柱の間あたりで、絃をはじく(肘の高さぐらいまで上げる)。 <b>七</b> <sup>4</sup> <b>九</b> <sup>4</sup> <b>斗</b> <sup>4</sup>	三音以上の和音を、分散して(少しずらして)弾く。 <b>斗</b> <sup>3</sup> <b>為</b> <sup>2</sup> <b>斗</b>	普通は人差し指で。手首を柔らかくして、爪の角を使い、絃のごく近くを往復させる。親指や、二本絃のトシモロもある。 <b>巾</b> ス <b>巾</b> ス <b>巾</b> ス	二と七を弾く場合、親指は六に、中指は三に置き、同時にパツと指を広げて二と七の絃を弾く。 <b>山</b>	絃の柱の左側の11、14センチ程離れた所を押ししておいて弾く。弱押し(半音上げ)、強押し(二音上げ)二重押し(一音半上げ)の三種類がある。 <b>五</b> <b>杜</b> <b>神</b> <b>山</b> ▲五 ▲七 ▲巾	異なる二本の絃を連続して押す時、人差し指、中指と親指で二本の絃に掛け渡して押す。 二本共、半音押しの際は同時に押し、一音と半音押しの際は、親指から人差し指・中指へと力を移動する。オクターブの際は、同時に二本の絃を寄せる感 じで押す。 <b>科</b> <b>八</b> <b>枕</b> <b>七</b> <b>山</b> ▲十 ▲八 ▲九 ▲七	弾いた後で押しして余韻を上げる。押すタイミングには大きく分けて、すく押し、次の音との中間で押す、ゆっくり押す、がある。ツウン、ツウン、ツウンウンなど。 <b>為</b> <b>オ</b> <b>七</b> <sup>6</sup> <b>六</b> <sup>5</sup> <b>五</b> <b>七</b> <b>ハ</b> <sup>0</sup> <b>山</b> ▲五 ▲ハ ▲五 ▲五

番号	L4	L5	L6	L7	L8	L9	L10	L11
名称	つきいろ 突き色	ひきいろ 引き色	ゆりいろ 揺り色	おしはなし 押し離し	ビブラート	スタッカート	けしづめ 消し爪	ハーモニクス
符号	ツ	ヒ	ユリ	ハオ		・	〃	8
読み譜						<b>山</b> 消し	<b>山</b> そえづめ 添え爪	
説明と例	弾いた直後に瞬間的に突くように、左手で後押しをしてすぐ離す。  為 ツ九 ツ <b>山</b> ツ為 ツ九	弾いた後に左手で、柱の左側の1、3センチの所の絃をしっかりと持ち、柱の方向に引き寄せ半音余韻を下げ、次に力を抜いて元の音に戻す。  斗 ヒ 五 ヒ〇 <b>山</b> ヒ為 ヒ九	余韻を揺り動かす装飾音。開放絃の場合、弾いた後、軽い引き色をゆっくりに繰り返す。 押し手の場合は、弾いた後に、軽く押し手の力を抜き、すぐまた元の押し手の強さに戻す。  脚 ユリ〇 脚 ユリ <b>山</b> ユ五	押しして弾いた後に左手を離して余韻を下げる。スツと手の力を抜き手は絃から離れないようにする。  樹 ハオ 樹 ハオハ <b>山</b> ▲五	左手で、絃を速く揺らして余韻を震わせませます。揺り色や突き色と同じような方法で、速く浅く揺らす。音高が大き過ぎないように気をつける。	弾いた後の余韻を消す。柱と竜角の中間点で、左手の第1関節と第2関節の間でパツと絃に触れる。右手で消す場合は掌の小指側の端で消す。  巾為斗	左手人差し指の爪を、柱の近くの右側で、絃の下から軽く当てる(シジという音)。  十 <sup>1</sup> 十 <sup>2</sup> △十五 <sup>3</sup> 十 <b>山</b> ソ十	柱と竜角の中間を、上から左手人差し指で軽く触った状態で弾く。元の音より一オクターブ高い音が出る。二本以上を弾く場合は、絃の順に親指、中指、薬指を絃の中心で一定の形で置いたままにする(手の大きさにもよる)。  1 為 <sup>8</sup> 2 斗 4 九 3 十

番号	M1	M2	M3	M4				
操作	絃の裏を弾く	竜角の外を弾く	絃を叩く	胴を叩く				
説明	柱よりも左側を、爪、右手薬指、左手で連続して弾く。調弦されていないのでバラバラゴロゴロという音。	竜角右横の狭い所を、中指爪で手前に速く引っ掻く感じ。	打ち爪と同じように、いろいろな絃を打って音を出し、旋律にしたり、衝撃音的にしたりする。また、手のひらで叩いたり、スティックなども使う。	左手、または右手爪皮で胴体の裏板部を叩く(樽を叩くような音)。				